

が或る時に宇宙をさまよつて居る一恒星と小なる星とが衝突して、分裂し現今の遊星を生じたものであるから、各遊星は同一時に生れ出したものであるとの新説を紹介せられ、聴者の大なる興味を惹いた。この新説は1934年11月8日出版の The Solar System and its Origin に因つて發表されたものであると。16時閉會後、山本博士は高知縣に向はれた。(水野千里)

## 高 知 通 信

今後高知通信を送ります。今まで天文の高知はあまりに静かでしたが、昨年太陽課の久保君を得るに至り、俄然活氣を呈し6月の日蝕には時刻觀測、寫眞撮影、氣象觀測と測候所班を凌ぐ優秀な成績を得。又、久保君の熱心な努力により黒點觀測日數に於て全國にて1、2を争ふ現状です。新聞社と連絡し、天文記事の掲載等一般にも大いに普及。最近には當地御出身東京支部長五藤齊三氏御歸縣に際し、太陽投影器や幻燈を使用しての天文講演會、會員の指導による天體觀測會、日蝕寫眞、5米水平寫眞機等天體寫眞展覽會、篠崎高校教授、赤松高知測候所長其他同好者多數參會の光學座談會等と多方面の催が行はれました。次に元祿時代の土佐天文學者谷泰山先生の遺品展覽會が、10月6・7・8と3日間圖書館に於て催され、百刻環、平水溝、正方案等の觀測機械類、1尺5寸に3尺5寸の星座圖、保井春海自筆の貞享歷、日本書記曆考、元天文法等の手記本、其他我國天文學の黎明時代を物語る貴重なる文獻多數出品されました。御多用中にも不拘、山本先生にも列席して戴く事が出來、熱心に研究されました。準備も整はず、短時間にて充分の御満足を得られなかつた事を恐縮して居ります。種々な催しにより同好者も多數に出來ましたので、他支部に負けぬ立派な支部が正式に近々出來上る事を御知らせ申上ます。(高知市 正木健三記)

**會告** 昭和11年度總會並びに一般公用の日食映畫と講演會は京都日出新聞社の援助のもとに、京星會々員の非常な盡力によつて、豫定通り同社に於て盛況裡に終了した。

●總會に提出された會期改正裁は可決され、新會期による役員——會長(1名)、副會長(2名)、會計監督(1名)、幹事(9名)——の決定を見、早速新幹事は幹事會を構成、將來の大方針を協議、目下活躍中。……以上詳細は追號誌上に發表。期待を乞ふ。